

『図解鍼灸療法技術ガイドⅠ，Ⅱ』

正誤表

本書におきまして、下記の通り記載内容に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

I [第1・2刷]

p46 左段 3行目

[誤] 直視 → [正] 直刺

p170 右段 9行目

[誤] haemodynamic model → [正] hemodynamic model

p277 エッセンス 4行目

[誤] 耳下腺 → [正] 舌下腺

p280 右段 下から4行目，6行目，p281 左段 5行目，7行目

[誤] 茎乳突起 → [正] 茎状突起

p290 図1 図説2行目～3行目

[誤] なお，第2頸神経は第2頸椎の下から，第3頸神経は第3頸椎の下から，第4頸神経は第4頸椎の下からでる。

↓

[正] なお，第2頸神経は第1頸椎の下から，第3頸神経は第2頸椎の下から，第4頸神経は第3頸椎の下からでる。

p345 図2 図のC点の上にあるE点

[誤] (E) → (F)

p359 右段 1行目

[誤] 四澆 → [正] 四瀆

p371 右段 3行目，メモ 1行目，3行目

[誤] 鍼先 → [正] 針先

p455 右段 6行目

〔誤〕筋腿 → 〔正〕筋腱

p462 左段 下から2行目～3行目

〔誤〕停止腱（C点）を触察する．停止腱を確認したらAC線に沿って長頭

↓

〔正〕停止腱（B点・C点）を触察する．停止腱を確認したらAC線，AB線に沿って両筋

p463 左段 下から2行目

〔誤〕半膜様筋，半腱様筋腱を → 〔正〕半膜様筋腱，半腱様筋腱を

p470 左段 9行目

〔誤〕内転筋の筋腹 → 〔正〕長内転筋の筋腹

p484 左段の下から7行目，図3の図説3行目

〔誤〕解谿穴 → 〔正〕解溪穴

p592 気逆スコア 一番下の段

〔誤〕手掌・足蹠 → 〔正〕手掌・足蹠の発汗

p658 右段 4行目～7行目

〔誤〕③攻補兼施（正気の衰えがそれ程強くない場合か，邪気が強くて虚弱した正気が耐えられない場合か，邪気が強いために早く祛邪する必要がある場合）

↓

〔正〕③攻補兼施（祛邪と扶正を同時に行うもので，正気の衰えがそれ程強くない場合か，邪気が強くて虚弱した正気が耐えられない場合に用いる原則）

p665 左段 11行目

〔誤〕手の厥陰肺経 → 〔正〕手の太陰肺経

p710 表2 アドソンテスト テストの方法

〔誤〕深呼吸のところで → 〔正〕深吸気のところ

p716 左段 2行目

〔誤〕患側の肩 → 〔正〕健側の肩

p768 図 1 c.

〔誤〕 片峰下 → 〔正〕 肩峰下

p897 図 3

〔誤〕 group II a → 〔正〕 group II

p909 左段 下から 13 行目

〔誤〕 恢刺 (かいし) → 〔正〕 恢刺 (かいし)

Ⅱ [第1・2刷]

p94 表 2 主な病態の 1 行目, 4 行目

〔誤〕 椎管狭小化 → 〔正〕 椎間狭小化

〔誤〕 腕神経 → 〔正〕 腕神経叢

p447 表 1

〔誤〕 24.2 以上で「過体重」, 26.4 以上で「肥満」 → 〔正〕 25 以上で「肥満」

p837 図 4 運動区の上点

〔誤〕 前後正中線より後方へ 0.5cm → 〔正〕 前後正中線の中点より後方へ 0.5cm

p847 図 5 図説 3 行目

〔誤〕 中点より 0.5cm のところ → 〔正〕 中点より後方 0.5cm のところ

p855 右段 下から 6 行目, p856 図 2 図説 4 行目

〔誤〕 グルコース代謝 → 〔正〕 酸素消費量

Ⅰ [第1・2・3刷]

p. 100 右段 下から 2 行目

〔誤〕 急性腹証 (腸捻転・腸重積等) 等での引きつけは適応症ではあるが,
脳炎や自家中毒による引きつけ, 痙攣は禁忌症である.

↓

〔正〕 急性腹症等や脳炎や自家中毒による引きつけ, 痙攣は禁忌症である.

p. 426 右段 下から 4 行目・2 行目

〔誤〕 18号 〔誤〕 中殿筋

↓

↓

〔正〕 20号 〔正〕 大殿筋

I **【第1～6刷】**

p866 左段 7行目

〔誤〕内反変形（X脚） → 〔正〕内反変形（O脚）

p866 左段 8行目

〔誤〕外反変形（O脚） → 〔正〕外反変形（X脚）